EXPERIMENTAL FILM / VIDEO
image forum festival 2017

EXPERIMENTAL FILM / VIDEO　映像アートの祭典

イメージフォーラム・フェスティバル2017

31th IMAGE FORUM FESTIVAL 2017

5.12(FRI)〜20(SAT)　京都芸術センター
6.2(FRI)〜4(SUN)　福岡市総合図書館
6.16(FRI)〜18(SUN)　横浜美術館
6.21(WED)〜25(SUN)　愛知芸術文化センター

特集 タンジブル・ドリーム
触れることのできる夢

主催：イメージフォーラム
共催：京都芸術センター、福岡市総合図書館、
映像ホール・シネラ実行委員会、横浜美術館、愛知県美術館
助成：芸術文化振興基金助成事業
協賛：株式会社ダゲレオ出版
協力：オーストリア大使館／オーストリア文化フォーラム、
渋谷東急REIホテル／日立マクセル株式会社
後援：カナダ大使館

イラストレーション:近田春夫

イメージフォーラム・フェスティバルは、映像のさまざまな最新表現を通して、これからの芸術表現、メディア環境を含める社会のありかたについて考える場を提供する映像祭です。国内外の優れた最先端の映像作品の上映、映像作家やキュレーターとの対話やレクチャーによって、多くの人に映像により近く、深く触れる機会を創出する試みを行ないます。

A 球体から生まれる映画

OKUAGA　手塚眞

A 球体から生まれる映画

rotation　水野勝規

D 追憶の表象

Hydrangea　狩野志歩

H 仮現する身体

TRAIN　大木裕之

日本を代表する映像作家の新作、話題作を上映する「ニューフィルム・ジャパン」は29の上映作品と1つのインスタレーション作品から構成される。高品質メディアが身近なものになった現在、若者の間でカセットテープや即席フィルムカメラなどが流行しているのは、単に懐古趣味というだけでなく非デジタル・メディアの本質的な魅力を感じているからだろう。それは、光量不足で黒く沈んだフィルムのノイズから得体の知れない気配を感じる『ゼア イズ サムワン』が示しているように、ノイズに潜む未確認物体を、我々がずっと追い続けているということなのかもしれない。敢えて今フィルムで映像を手がけるということは、フィルムメディアのキャパシティ、広大なエマルジョンの大地に於ける、人間の認知能力を高めようとすることを意味するのか。奥山順市は『生ヒルム・ん！打々』の中で生フィルムに孔を穿ち映写機の光を解放する。その白く結束したノイズがスクリーンを照らす時、人は心踊らずにはいられない。

不明瞭に魅力を求めるのは、アナログの専売特許というわけではない。幾重にもオーバラップされた同じ景色が、やわらかな記憶の輪郭として表現される『Hydrangea』や、太陽の陰りが軸となった『rotation』、モザイク処理を揶揄した『AST*RISK』も、デジタルメディアならではの映像美に潜む視覚的な謎が観客を惹き付ける。

映画のストーリーに観客が求めているのは、未知なる事柄だ。独特のユルさがクセになる大力拓哉と三浦崇志の『monologues』と『ほなね』は、次々と頭に浮かぶ「?」が心地いい。面白さに理屈がいらないことは冠木佐和子のあけすけにエロティックなアニメーションが証明している。人間ほどあいまいで魅力的な被写体はいない。かわなかのぶひろや大木裕之の実験的なドキュメンタリーでは、人間の感情、記憶、脳内に浮かぶイメージそのものを、映像としてスクリーンに現出させようと試みている。

3年間に渡って書き溜められた夥しい鉛筆画が素材となった『陽気な風景たち』はその圧倒的な存在感で観客の心象風景を呼び起こす"触媒映像"。人がスクリーンの向こう側に見つめるのは自分自身なのかもしれない。

ジャパン・トゥモロウ 一般公募部門

本年度のジャパン・トゥモロウには日本全国から417作品の応募があった。厳正なる審査のもと、15作品がノミネート選出され、全作品が京都、福岡、名古屋会場で上映される。フェスティバルの東京開催期間中に、最終審査が行なわれ、5月6日の授賞式で入賞5作品と観客賞を発表。本年度の観客賞は「ジャパン・トゥモロウ」ノミネート作品だけでなく、「ニューフィルム・ジャパン」を含めた日本の全新作が対象、会場に設置された投票用紙に書き込むことで参加が可能、熱い一票を! 横浜会場では大賞作品および最終審査員が選んだ作品を選抜プログラムで上映する。

最終審査員（50音順、敬称略）
石山友美（映画監督）
カルロ・シャトリアン　Carlo Chatrian（ロカルノ国際映画祭 アーティスティック・ディレクター）
近藤健一（森美術館キュレーター）

ノミネート作品（タイトル50音順）

あいヲ探シテ
髙村安以

a whisper
三輪隆

生まれたときから木に挟まれて動けない人
山中千尋

鱗のない魚
木村あさぎ

おもかげたゆた
大寳ひとみ

Camouflage 迷彩
YUKA

草る日々
篠田知宏

ZA/ZA
林紗綾香

確かな気配
浅尾鷹哉

手のなる方へ
薄羽涼彌

21日を見つけに
池端規恵子

風船
中尾広道

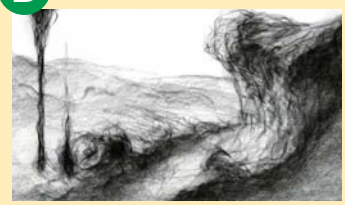
For rest
磯部真也

閉塞
中村衣里

ようこそぼくです4
～ようこそぼくですってなんですか?～
姫田真武

ニューフィルム・ジャパン 日本招待部門

B 奇遇な風景たち



陽気な風景たち　黒坂圭太

B 奇遇な風景たち

マドラグ　林勇気

C 空き地で遊ぶ

静かに遊ぶ　外山光男

D 追憶の表象

むかしの山　辻直之

E 光線は踊る

生ヒルム・ん！打々　奥山順市

E 光線は踊る

Ophelia Solution　万城目純

G 誰かがまたねと

ゼア イズ サムワン　鈴木所長

G 誰かがまたねと

ほなね　大力拓哉、三浦崇志

H 仮現する身体

サヴァイヴァル5+3（デジタル捕獲版）
芹沢洋一郎

H 仮現する身体

Slider　佐竹真紀

I 未来は網膜に届く

夏のゲロは冬の肴　冠木佐和子

I 未来は網膜に届く

AST*RISK　田中廣太郎

ニューフィルム・インターナショナル 海外招待部門

ドキュメンタリー:21世紀の我らがはらから

労働は人工知能やロボットにとって代わられ、近い将来その殆どが必要なくなると言われている。炭坑や、工事現場、工場での重肉体労働に至ってはいまや既に過去の遺物で、近いうちに地上から消え失せるべきものなのだろうか。労働者が世界を創る、そんな思想は歴史の熱病、一時の誇大な妄想に過ぎなかったのだろうか…。労働で生きていけなくなった人々のこれからの居場所は? 傑作ドキュメンタリーを通して、そうした問いを思わず躊躇する世界の過酷な最前線を目にする。

R 無題

無題　ミヒャエル・グラヴォガー＋モニカ・ヴィリ

S ワーキング・マンズ・デス 労働者の死

ワーキング・マンズ・デス　労働者の死
ミヒャエル・グラヴォガー

T エル・マール・ラ・マール

エル・マール・ラ・マール
ジョシュア・ボネッタ＋J.P.・シニァデ゛ツキ

U 陽の当たる町

陽の当たる町　ラティ・オネリ

フィルム・メーカーズ・イン・フォーカス

V 切断された時間、繋がれた時間 今井祝雄特集

ピザ・タイム　今井祝雄

W 中井恒夫初期作品集

パリュウド　中井恒夫

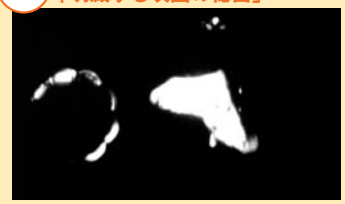
X 萩原朔美作品集

ザ・ドリーム・ネック・ギロチンド　萩原朔美

Y 主題と手法の一致 芹沢洋一郎作品集

合成人間　芹沢洋一郎

横特 横浜特別講座「明滅する映画の秘密」



バタフライ　萩原朔美

横特 横浜特別講座「明滅する映画の秘密」

映像〈かげ〉　相原信洋

ニューフィルム・インターナショナル 海外招待部門

特集:タンジブル・ドリーム　触れることのできる夢

かつて映像はフィルムという物質を透過して写される影であった。フィルムが無くなり、我々と像の間に物質の介在が無くなった今、我々がそこに見つづけているものは一体なんなのか。物質性から解放された映像は、一体これからどこへ向かうのか。進歩によって無用とされた技術は、もうこれから何の役にも立たないのか。
「特集:タンジブル・ドリーム　触れることのできる夢」では、あらたなる映像の未来を思い描く地点として、映画が本来持っていた物質性に着目し、フィルムが触れられるからこそ持っていたメディアとしての可能性について改めて検証する。

J ドーソン・シティー:凍結された時間

ドーソン・シティー:凍結された時間　ビル・モリソン

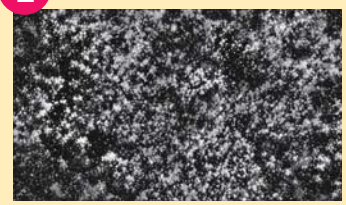
K シネマ・フューチャーズ

未来の映画・映画の未来　ミヒャエル・パルム

L 光の軌跡、闇の鼓動

震える巨人　パトリック・タラント

L 光の軌跡、闇の鼓動



その夢を燃やし続けろ　ライナー・コールバーガー

M カセット:ドキュメンタリー・ミックステープ

カセット:ドキュメンタリー・ミックステープ
ザック・テイラー

N Ascent／アセント

Ascent／アセント
フィオナ・タン

©Fiona Tan / Photo: 遠藤進

P 深きに眠る光　斎藤大地特集

統辞の樹木、範列の葉　斎藤大地

P 深きに眠る光　斎藤大地特集

なおのうごめき　斎藤大地

Q 対話の可能性

Das Gestell 集立態　フィリップ・ヴィトマン

Q 対話の可能性

犬を見れば、声が聞こえる　ジェシー・マクリーン

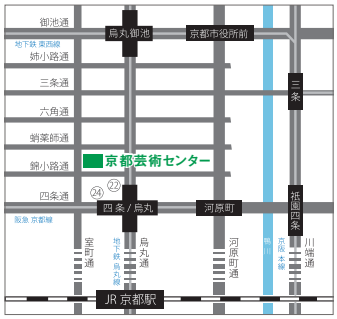
Q 対話の可能性

雲海　ジョージ・クラーク

T エル・マール・ラ・マール

眠り　パシ・スリーピング・ムルマキ

京都 **京都芸術センター フリースペース**

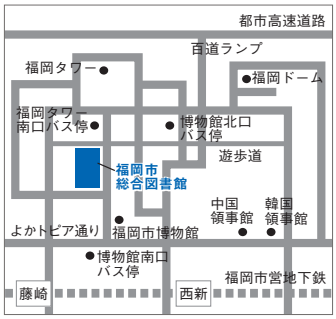


京都芸術センター

〒604-8156
京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2
TEL:075-213-1000

地下鉄烏丸線「四条駅」、阪急京都線「烏丸駅」22・24番出口より徒歩5分。
駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

福岡 **福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ**

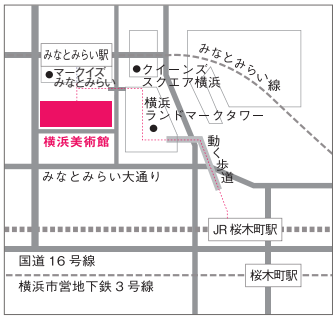


福岡市総合図書館

〒814-0001
福岡県福岡市早良区百道浜3-7-1
TEL:092-852-0600

1 市営地下鉄西新駅・藤崎駅下車徒歩15分
2 西鉄バス博多駅、天神、西新から福岡タワー南口下車徒歩5分、博物館南口下車徒歩5分、藤崎から福岡タワー南口下車徒歩5分
※バス運行時間、目的地までの所要時間の目安、またお近くのバス停からのご利用については西鉄お客様センター(tel:0570-00-1010)に直接お問い合わせください。

横浜 **横浜美術館 レクチャーホール**

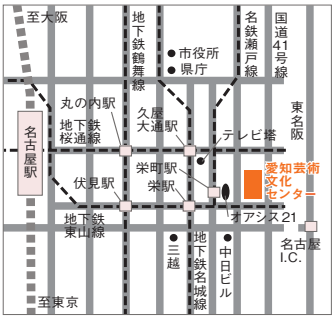


横浜美術館

〒220-0012
神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1
TEL:045-221-0300

1 みなとみらい線(東急東横線直通)
みなとみらい駅下車、3番出口より徒歩3分
2 JR・市営地下鉄線 桜木町駅下車
[動く歩道]を利用、徒歩10分

名古屋 **愛知芸術文化センター12階 アートスペースA・G**



愛知芸術文化センター

〒461-8525
愛知県名古屋市東区東桜1-13-2
TEL:052-971-5511(代)

地下鉄東山線・名城線栄駅、名鉄瀬戸線栄町駅下車、オアシス21連絡通路利用徒歩3分

入場料(消費税込)

■当日券
【1回券】1,000円　【4回券】2,500円　【フリーパス】4,500円

チケットぴあ、ローソンチケットなどで特別鑑賞券を発売中!

■特別鑑賞【1回券】800円　【4回券】2,500円　【フリーパス】4,500円
チケットぴあ――TEL:0570-02-9999　Pコード:467-212
ローソンチケット――TEL:0570-000-777
Lコード:京都51367、福岡81466、横浜34675、名古屋43752
※自由席・各回入替制　※4回券、フリーパス券はお一人様用です。複数名ではお使いになれません。

■チケットは、京都、福岡、横浜、名古屋の4会場共通でご使用になれます。
■各プログラムは上映開始15分前に開場します。
■各会場で一部展示・上映のない作品があります。ご注意下さい。
■イメージフォーラム・フェスティバル2017に関する情報は、下記アドレスでもご覧になれます。
www.imageforumfestival.com
■若干の上映作品の変更、上映順、上映フォーマットの変更が生じる場合もあります。
予めご了承ください。
■本フェスティバルのカタログを会期中に1部600円で販売いたします。

イメージフォーラム・フェスティバル2017事務局
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-10-2
TEL. 03-5766-0116　FAX. 03-5466-0054

IMAGE FORUM　KYOTO ART CENTER　福岡市総合図書館　横浜美術館　aomoa　AICHI ARTS CENTER　オーストリア文化フォーラム　渋谷 東急REIホテル　maxell

ニューフィルム・ジャパン　日本招待部門

ジャパン・トゥモロウ　一般公募部門

★=「ジャパン・トゥモロウ」最終審査ノミネート作品

A　球体から生まれる映画
4作品82分
京都 5/16 16:30
福岡 6/2 11:30
名古屋 6/21 12:40

ヴィジュアリストとして多彩な活動を続ける手塚眞。近年のIFFでは8ミリ作品が続いたが、『OKUAGA』ではドローン撮影を駆使し、奥阿賀の荘厳な自然とダンスを融合させる新たな試みを展開する。『rotation』は、モノクロームで描いた光のスケッチ。風景を捉え続けて来た水野勝規の円熟の境地。園芸と顕微鏡から広がるイマジネーション『風船』、人間と地球の孤独をストップモーションで表現した野心作『a whisper』。

OKUAGA　手塚眞／デジタル／20分／2016
rotation　水野勝規／デジタル／サイレント／10分／2017
風船　中尾広道／デジタル／27分／2017…★
a whisper　三輪隆／デジタル／25分／2017…★

B　奇遇な風景たち
7作品74分
京都 5/16 13:45
福岡 6/2 13:50
名古屋 6/21 14:50

個展「電源が切れると何もみえなくなること」が大きく注目を集めた林勇気の新作『マドラグ』、CG映像表現の次なる一手を指す『手のなる方へ』、創作の内側を辿るアニメーション『生まれたとき…』、実験映像のヴェテランによる『皮・層』、生と死の極限美『Heaven』、16ミリによるタイムラプス『For rest』。日本を代表するアニメーション作家のひとりである黒坂圭太の夥しい鉛筆画を素材とした『陽気な風景たち』。

マドラグ（西陽の国）　林勇気／デジタル／5分／2017
手のなる方へ　薄羽涼彌／デジタル／7分／2016…★
生まれたときから木に挟まれて動けない人　山中千尋／デジタル／5分／2017…★
皮・層　黒川芳朱／デジタル／3分／2017
Heaven　平林勇／デジタル／13分／2016
For rest　磯部真也／16ミリ／17分／2017…★
陽気な風景たち　黒坂圭太／デジタル／24分／2015

C　空き地で遊ぶ
5作品75分
京都 5/16 19:00
福岡 6/2 16:10
名古屋 6/21 16:30

ほんのりかわいいドローイングと物理演算によるアニメーションが有機と無機の狭間で戯れる『静かに遊ぶ』、ろうそく照明による影絵アニメーション『ZA/ZA』。8ミリフィルムに日本一拘るチーム・アナドルナは具象と抽象の間を求めてアナーキーなミックスを展開。『Camouflage 迷彩』は『in the room』でIFF15優秀賞のYUKAによる美しい実験映像。遊びの天才大力・三浦コンビ『Monologues』は楽しい死後の世界だ。

静かに遊ぶ　外山光男／デジタル／14分／2017
ZA/ZA　林紗綾香／デジタル／6分／2017…★
ふいに舞う　チーム・アナドルナ（ほしのあきら、マエダ・シゲル、タケヒロ雄太、神山昇）／8ミリ／デジタル版／15分／2017
Camouflage 迷彩　YUKA／デジタル／7分／2017…★
Monologues　大力拓哉、三浦崇志／デジタル／33分／2016

D　追憶の表象
6作品72分
京都 5/15 13:45
福岡 6/3 16:10
名古屋 6/23 16:30

『むかしの山』はインド神話を原作とした描いては消す木炭アニメーション。愛情の混乱が空間を歪め目眩を起こす『確かな気配』、時間の軌跡が日常の反復と差異を映す『Hydrangea』、こぼれ落ちる記憶を詩で紡ぐ『21日を見つけに』、遠い記憶の母に呼びかける『おもかげたゆた』。かわなかのぶひろは1998年の『時の繪』でカメラを向けたミャンマーを再訪し、新作を手がけた。

むかしの山　辻直之／16ミリ／3分／2017
確かな気配　浅尾鷹哉／デジタル／10分／2017…★
Hydrangea　狩野志歩／デジタル／12分／2016
21日を見つけに　池端規恵子／デジタル／13分／2017…★
おもかげたゆた　大賓ひとみ／デジタル／9分／2016…★
時の繪ふたたび　かわなかのぶひろ／デジタル／25分／2017

E　光線は踊る
6作品87分
京都 5/15 16:30
福岡 6/3 13:50
名古屋 6/23 12:40

名画「オフィーリア」をモチーフにした万城目純のワンショット映画、自作自演のうたとアニメーションがユーモラスな『ようこそぼくです4』、映像の仕組みから人間の感覚を分解・再構築する五島一浩の「grained time」シリーズ最新作『私はそうでなかったかもしれない』。『草る日々』は40代の、『あいヲ探シテ』は20代の作者の苦悩が胸をうつ。近年内外から再脚光を浴びる、実験映画ひとすじ半世紀の奥山順市によるスクリーン側とランプ側、一度で二度おいしい奥山流ダダ映画。

Ophelia Solution　万城目純／デジタル／15分／2017
ようこそぼくです4 ～ようこそぼくですってなんですか?～　姫田真武／デジタル／11分／2016…★
草る日々　篠田知宏／デジタル／9分／2017…★
grained time vol.4　私はそうでなかったかもしれない　五島一浩／デジタル／10分／2017
あいヲ探シテ　髙村安以／デジタル／22分／2017…★
生ヒルム・ん！打々　奥山順市／デジタル／20分／2017

ニューフィルム・インターナショナル　海外招待部門

特集:タンジブル・ドリーム 触れることのできる夢　J K L M N O P Q

J　ドーソン・シティー:凍結された時間
2作品123分
京都 5/12 19:00
福岡 6/3 18:30
名古屋 6/24 18:40

1896年のクロンダイク・ゴールドラッシュによって突如生まれた町ドーソン・シティー。一攫千金を夢見た人々が大挙し、やがて去っていたその街に残された数々の遺物。その一つであるスケートリンクを解体し掘り返したところ、そこから大量のナイトレイト・フィルムが出土した。可燃性ゆえに80%は消失したと言われているサイレント時代のフィルム。1910年代の貴重な映画を素材として紡がれる、アメリカ開拓史とショービズ黎明期の記憶。

水の中のUFO　パシ・スリーピング・ムルマキ／8ミリ（デジタル版）／3分／1979（フィンランド）
ドーソン・シティー:凍結された時間　ビル・モリソン　音楽: アレックス・ソマーズ／デジタル／120分／2016（アメリカ）

K　シネマ・フューチャーズ
2作品128分
京都 5/20 19:00
福岡 6/4 16:10
名古屋 6/25 16:30

スタートレックのスポック博士が200年前の映画フィルムを吟味するシーンを引用しつつ、本作品は映画の未来について考えを巡らす。過去のメディアとして一旦は表舞台から姿を消したフィルムは、スコセッシやノーランといった映画監督らに特別な美的価値を見いだされ、今やメジャー・スタジオではデジタルで作られた映画の保存にフィルムを使用している状況だ。映画関係者のインタビューや科学教育映画のフッテージを織り交ぜ、現世界を支配するデジタル・テクノロジーの万能性について疑問を投げかけるドキュメンタリー。

セルロイド上の5つの穴　パシ・スリーピング・ムルマキ／8ミリ（デジタル版）／2分／1980（フィンランド）
未来の映画・映画の未来　ミヒャエル・パルム　出演: マーティン・スコセッシ、クリストファー・ノーラン、タシタ・ディーン、アピチャッポン・ウィラーセタクン他／デジタル／126分／2016（オーストリア）

L　光の軌跡、闇の鼓動
5作品63分
京都 5/14 13:45
横浜 6/16 16:30
名古屋 6/24 10:30

フィルムというメディアが我々に与える霊感についてのプログラム。自分の居住する部屋から出ずに、四季の移ろいと身の回りのものについての思いを重ねあわせるベン・リヴァースの『つれづれ』はロッテルダム映画祭でグランプリを受賞した。数多くのアクション映画の爆発や洪水などのノイズだけを抽出・再構成して物語性を脱構築し、強烈な視覚効果を付与した『その夢を燃やし続けろ』など、5作品を上映。

詩　ダン・ブラウン／デジタル／4分／2015
つれづれ　ベン・リヴァース／16ミリ／21分／2014
霧の通り道・14番　アレクサンドル・ラローズ／35ミリ／サイレント／10分／2013
震える巨人　パトリック・タラント／デジタル／20分／2016
その夢を燃やし続けろ　ライナー・コールバーガー／35ミリ／8分／2017
※横浜会場では35ミリはデジタル版で上映

M　カセット:ドキュメンタリー・ミックステープ
2作品95分
京都 5/13 19:00
横浜 6/17 18:30
名古屋 6/25 12:40

〈録音●〉ボタンを押す時のあの甘美な瞬間…。自分のベスト選集を作るもよし、好きな番組をエア・チェックするもよし、自らのデビュー用デモ・テープを録音するもよし…。カセット・テープのおかげで、僕らは音楽を「自分のもの」にできた。70年代におけるその登場以来、カセットは音楽の民主化に間違いなく寄与したメディアである。現在すでに用済みと考えられていたカセットが、人気復活の兆しを見せているのは何故か?　その秘密とカセット・テープ誕生の秘話に迫る。

アンダルシアの犬小屋　パシ・スリーピング・ムルマキ／8ミリ（デジタル版）／2分／1980（フィンランド）
カセット:ドキュメンタリー・ミックステープ　ザック・テイラー　出演: ヘンリー・ロリンズ、サーストン・ムーア、イアン・マッケイ、ダニエル・ジョンストン他／デジタル／93分／2016（イギリス）

N　Ascent／アセント
2作品83分
京都 5/13 16:30
横浜 6/18 11:30
名古屋 6/24 16:30

イギリス人女性メアリーの元に死んだ恋人、ヒロシから手紙と写真で一杯の箱が届いた。ヒロシの手紙は、富士山の登山について語っていた。観客はメアリーとともに箱の中の写真を一枚一枚眺めていく…。過去150年の間に撮影された4000枚の富士山の写真を通じて、観客は東洋と西洋、ドキュメンタリーとフィクション、人間と風景、写真と映画について想いを巡らすことになる。クリス・マイケル『ラ・ジュテ』を彷彿とさせながら、作家フィオナ・タンは、映画とは何かという問いに対する答えを、写真というメディアの中に見いだそうと試みる。
協力:ワコウ・ワークス・オブ・アート

身ぶり　パシ・スリーピング・ムルマキ/8ミリ（デジタル版）/3分/1981（フィンランド）
Ascent／アセント　フィオナ・タン　ナレーション: 長谷川博己／デジタル／80分／2016（オランダ／日本）

O　ピーター・ハットンへのトリビュート
5作品61分（横浜会場では6作品77分）
京都 5/20 11:00
横浜 6/18 16:30
名古屋 6/24 14:50

“僕の映画は映画史において特に重要というわけではない。そういったところから少し回り道したところにある。自然を眺めるのが好きな人や、情報過多でない何かを吟味したいような人に好まれる。僕の映画を観るのはちょっとした白日夢を観るような感じなのだ。”“世界の美しさを讃える、静かで原始的なドキュメンタリー”（カイエ・デュ・シネマ）を40年以上作り続け、惜しくも2016年に亡くなった、知られざる巨匠ピーター・ハットンの作品を上映する。

謎のヒッチハイカーが3つの石を拾った　パシ・スリーピング・ムルマキ／8ミリ（デジタル版）／2分／1979（フィンランド）
ニューヨーク・ポートレート（パート1） ※横浜会場のみの上映　ピーター・ハットン／16ミリ／15分／1976-1978（アメリカ）◎横浜美術館所蔵作品
マノンのための風景　ピーター・ハットン／16ミリ／13分／1988（アメリカ）
タイタンの酒杯　ピーター・ハットン／16ミリ／10分／1991（アメリカ）
ウッジ交響曲　ピーター・ハットン／16ミリ／20分／1993（アメリカ）
河についての考察　ピーター・ハットン／16ミリ／16分／1996（アメリカ）

F この青い世界／オルタナティヴ・ドラマ1
2作品77分

京都 5/15 19:00
福岡 6/2 18:30
名古屋 6/23 10:30

ネット、就職、セックス、イジメ…大学生のリアルなトピックを現実と非現実が交錯するドラマに込めた『閉塞』。二人の女性のドキュ・ドラマ『鱗のない魚』は、幻惑的な独特の映像美と、イメージの鮮やかな転換に眼が奪われる。共に1994年生まれの作者は、巷で大量生産／消費される商品としての青春には迎合しない。自身の表現と真摯に向き合い、同年代のリアルを捉えた。個性的な演者の魅力にも注目すべし。

閉塞　中村衣里／デジタル／47分／2017 …★
鱗のない魚　木村あさぎ／デジタル／30分／2016…★

G 誰かがまたねと／オルタナティヴ・ドラマ2
2作品84分

京都 5/18 19:00
名古屋 6/22 10:30

8ミリフィルムのスクラッチ、多重露光を駆使した『ゼア イズ サムワン』は、不穏な気配が漂うノンナラティヴのホラー映画。"太郎"と"おじさん"が撮ってきたビデオを見ながら自由にしゃべりあう『ほなね』は、ミニマムなシチュエーションに、独特の間とテンションの関西弁トークがゆるーく炸裂する大力・三浦コンビの真骨頂。二人の手にかかれば、プロジェクターの設定操作を見せられるだけでもクスクス笑わされてしまう。

ゼア イズ サムワン　鈴木所長／デジタル／9分／2016
ほなね　大力拓哉、三浦崇志／デジタル／75分／2016

H 仮現する身体
5作品76分

京都 5/17 19:00
名古屋 6/22 16:30

大木裕之の際立って個性的な映画を体験すると、個人による映像作品はその作者自身であると強く感じるに違いない。Yプログラムで旧作を特集する芹沢洋一郎はIFF97以来となる新作を発表、自身の一部が映画であることを告白する。『アポロンの背中』は慧眼のアーティストによる20世紀の身体とメディアに関する考察。『mechanicalife』は関節まで紙(!)の人形が、『Slider』は指先でつまれた瞬間がアニメーション化される。

アポロンの背中　田村友一郎／デジタル／21分／2016
mechanicalife　中西義久／デジタル／5分／2017
サヴァイヴァル5+3(デジタル捕獲版)　芹沢洋一郎／デジタル／8分／2017
Slider　佐竹真紀／デジタル／2分／2016
TRAIN　大木裕之／デジタル／40分／2017

I 未来は網膜に届く
7作品75分

京都 5/18 16:30
名古屋 6/22 12:40

『記憶のマチエール』は、忘却されようとしてる先の戦争の記憶を生者の声や表情のディテールで伝える。見えない壁の映画『Le Mur』、モザイク処理が暴走する『AST*RISK』は、不寛容が進む現代を揶揄するかのようだ。エロもゲロもポップな冠木佐和子のメタモルフォーゼ・アニメーション、多層的で詩的なドキュメンタリー『Garden』、ストイックなエナジーで丹念なコマ撮りを続ける小池照男の「生態系」シリーズ25作目。

記憶のマチエール#9 <D28>
ビジュアル・ブレインズ(風間正、大津はつね)／デジタル／29分／2017
Le Mur　太田曜／16ミリ／7分／2017
Nou Nen feat.utae　冠木佐和子／デジタル／3分／2015
夏のゲロは冬の者　冠木佐和子／デジタル／3分／2016
AST*RISK　田中廣太郎／デジタル／7分／2017
Garden　鈴木光／デジタル／16分／2016
ECOSYSTEM-25- Black2　小池照男／デジタル／10分／2017

イ インスタレーション(各会場で展示)
1作品

精巧なミニチュアと小型カメラなどの映像装置を用いて映像メディアの特性をユーモラスに示すビデオ・インスタレーション作品群が、内外の美術展に引っ張りだこの伊藤隆介。段ボール箱に映画館をこしらえ、映画と戦後社会の関係を問う。「スクリーンに映し出される物質的な夢と政治的背景、急ごしらえのバラックのような市民社会について、佇まいとして感じ取れる作品になっていればと願っている」(伊藤隆介)

BOX OFFICE　伊藤隆介／ビデオ・インスタレーション／2017

トゥ ジャパン・トゥモロウ・セレクション

横浜 6/16 18:30

ジャパン・トゥモロウの大賞作品および、最終審査員が選んだ作品を上映。上映作品は東京会場での最終審査後にWEBサイトで発表する。

P 深きに眠る光　斎藤大地特集
8作品70分

京都 5/12 16:30
横浜 6/17 16:30
名古屋 6/24 12:40

編集、再撮影、自家現像、プリントなどを自ら手がけ、フィルムの物質性と視覚の肉体性を追求する斎藤大地のフィルム作品集。カナダのモントリオールを拠点にアーティスト・コレクティブ「ダブル・ネガティブ」を創設、実験映画の上映・制作活動も行なう斎藤は、アン・アーバー映画祭、ロッテルダム映画祭ほか名だたる映画祭で受賞し、フィルム・コメント誌で「21世紀の映像作家」第3位を獲得している。日本初の個展上映に際し斎藤大地が来日する予定。

キアスムス　斎藤大地／16ミリ／8分／2003(カナダ)
深淵のダンス　斎藤大地／16ミリ／6分／サイレント／2004(カナダ)
行き止まりの予兆　斎藤大地／8ミリ／サイレント／3分／2006(カナダ)
緑の導火線　斎藤大地／8ミリ／サイレント／3分／2008(カナダ)
すべて上昇するもの　斎藤大地　音楽: マルコム・ゴールドスタイン／16ミリ／7分／2007(カナダ)
統辞の樹木、範列の葉
斎藤大地　音楽: マルコム・ゴールドスタイン／35ミリ／10分／2009(カナダ)
なおのうごめき
斎藤大地　音楽: マルコム・ゴールドスタイン／16ミリ・2台映写／14分／2012(カナダ)
帰還のエングラム　斎藤大地　音楽: ジェイソン・シャープ／35ミリ／19分／2015(カナダ)
※京都、横浜会場では35ミリはデジタル版で上映

Q 対話の可能性
4作品66分

京都 5/14 11:00
横浜 6/18 18:30
名古屋 6/25 14:50

人は人間じゃないもの、例えば犬と、あるいは人工知能とコミュニケーションを取ることが可能なのか? 人は何かと何かを結びつける、または理解することに対する欲求をあきらめることが出来ない。そしてその「信じる」という不確実な行為が、新たな危険や創造を生み出すのだ。
ハイデガーと小林威彦の往復書簡(『Das Gestell 集立態』)、日本植民地下での台湾の地下上映運動についての証言と現代台湾の風景の対比(『雲海』)、Youtubeの犬動画とチャットボットとの会話(『犬を見れば、声が聞こえる』)を通じ"対話の可能性"を探求する。

フォルサ症候群　パシ・スリーピング・ムルマキ／8ミリ(デジタル版)／2分／1982(フィンランド)
Das Gestell　集立態　フィリップ・ヴィトマン／デジタル／30分／2017(ドイツ／日本)
雲海　ジョージ・クラーク　出演: チェン・ジェレン／デジタル／16分／2016(イギリス／台湾)
犬を見れば、声が聞こえる　ジェシー・マクリーン／デジタル／18分／2016(アメリカ)

ドキュメンタリー:21世紀の我らがはらから　R S T U

R 無題
2作品107分

京都 5/13 11:00
横浜 6/17 11:30
名古屋 6/25 10:30

朋友ウルリヒ・ザイドル(『パラダイス』、『サファリ』)に続き日本での紹介が待たれていたドキュメンタリスト、ミヒャエル・グラヴォガーの最新作にして遺作。何の目的もなく1年世界を旅して完成させようと試みた本映画プロジェクトの道半ば、グラヴォガーはリベリアでマラリアのため命を落とした。残されたフッテージを、彼の長年の編集者モニカ・ヴィル(『白いリボン』『愛、アムール』の編集者でもある)が完成させた。世界の美しくも過酷な真実を捉えたドキュメンタリー。

世界一周　パシ・スリーピング・ムルマキ／8ミリ(デジタル版)／2分／1981(フィンランド)
無題　ミヒャエル・グラヴォガー+モニカ・ヴィリ／デジタル／105分／2017(オーストリア)

S ワーキング・マンズ・デス 労働者の死
2作品124分

京都 5/13 13:45
横浜 6/16 14:00
名古屋 6/21 18:40

2005年のベネチア映画祭で上映後、世界各地の映画祭を席巻したグラヴォガーの代表作。インドネシアの硫黄鉱、ナイジェリアの青空屠殺場、パキスタンのジャンク船着き場など、世界の極限的な労働現場で働く者たちを追い、現代社会において視界の外に追いやられている重労働の現場を観る者の眼前に突きつける。辛辣さと詩情を同時に湛えた傑作ドキュメンタリー。

りんご　パシ・スリーピング・ムルマキ／8ミリ(デジタル版)／2分／1976(フィンランド)
ワーキング・マンズ・デス　労働者の死
ミヒャエル・グラヴォガー 音楽: ジョン・ゾーン／デジタル／122分／2005(オーストリア)

T エル・マール・ラ・マール
2作品96分

京都 5/20 16:30
福岡 6/4 13:50
名古屋 6/22 18:40

メキシコと米国にまたがるソノラ砂漠。日本の本州ほどの広さのあるこの砂漠をメキシコからの移民が数日かけて歩いて渡ってくる。昼は40度を超え、コヨーテやジャガーも生息するこの国境地帯では、1990年代以降6000人以上の遺体が国境警備隊に発見されている。IFF2013で上映された『リヴァイアサン』の作家たちと同じハーバード大学感覚民族誌学研究所出身の作家たちが、移民たちのインタビュー音声を元に、彼らが遭遇したであろう風景やサウンドスケープを視覚的・音響的に再構成した「風景論+サウンド・スケープ論」映画。トランプ政権誕生で、地政学的にも焦点となっている地域への卓越した視線が今年のベルリン映画祭でも大きく賞賛された。

眠り　パシ・スリーピング・ムルマキ／8ミリ(デジタル版)／2分／1979(フィンランド)
エル・マール・ラ・マール　ジョシュア・ボネッタ+J.P.・シニァデツキ／デジタル／94分／2017(アメリカ)

U 陽の当たる町
2作品105分

京都 5/12 13:45
福岡 6/3 11:30
名古屋 6/23 18:40

グルジア西部の都市チアトゥラは、かつて世界で使用する半分近くのマンガンを産出し、革命後におけるロシアの重工業を支えたと言われている。資源がほぼ枯渇した現在、人口は激減し、往時の栄華と社会主義的ユートピアの幻想を伝える巨大な建築物や引き込み線が、その朽ちた姿を陰鬱に晒している。だがそこに残された人々は、今も変わらず鉱夫として生き生きと働き、仕事が終われば演劇クラブや、民謡クラブで親密な交流を深める。グルジアの俊英による、美しい無常感を暖かい目で捉えたデビュー作。

アスファルト・バレエ　パシ・スリーピング・ムルマキ／8ミリ(デジタル版)／1分／1980(フィンランド)
陽の当たる町　ラティ・オネリ／デジタル／104分／2017(グルジア)

フィルム・メーカーズ・イン・フォーカス　V W X Y

V 切断された時間、繋がれた時間　今井祝雄特集
6作品66分
京都 5/14 16:30　福岡 6/4 11:30　名古屋 6/22 14:50

具体美術協会のもっとも若いメンバーであった今井祝雄は、1960〜70年代に独特のダダイスト的ユーモアに満ちたアプローチで、フィルムやビデオといった映像メディアの物質性を際立たせ、時間に手触りの感覚を与えようと試みた。最近ベルギー王立シネマテークやロッテルダム映画祭で個展が開催されるなど、海外での評価が著しい、今井の貴重な作品群を上映・展示する。

円　今井祝雄／16ミリ／3分／1967
フロア　今井祝雄／16ミリ／3分／1972
ジョインテッド・フィルム＋切断されたフィルム　今井祝雄／16ミリ＋スライド／20分／1973
オン・エアー　今井祝雄／ビデオ／21分／1980
ビザ・タイム　今井祝雄／ビデオ／10分／1983
タイム・イン・スクエア　今井祝雄／ビデオ／9分／1984
☆今井祝雄 ティーチ・イン: 5/14 16:30の回

W 中井恒夫初期作品集
5作品73分
京都 5/14 19:00　横浜 6/17 14:00　名古屋 6/23 14:50

「闇から掬いあげられた一掴みの銀の鍛金膜の映像によってなりたっている私のフィルムは、闇を共有しあおうとする私の一掴みの欲望の機械仕掛けなのだ」（中井恒夫）
1960年代に草月実験映画祭や、クノックル・ル・ズートの実験映画祭で早くから国内外で評価され、その後マルティメディア・アーティストして活動を広げていった中井恒夫の初期のフィルム作品を上映。時代状況を反映したアクショニズム的な最初期の作品から、やがてミニマルで構造映画的なアプローチへと移行していく。

パリュウド　中井恒夫／16ミリ／20分／1968
仮眠の皮膚　中井恒夫／16ミリ／12分／1967
リュミエール　中井恒夫／16ミリ／3分／1971
アゾート　中井恒夫／16ミリ／20分／1973
練金薬液　中井恒夫／16ミリ／18分／1973

萩原朔美作品集　X1 ▸▸▸ X4

萩原朔美は寺山修司主宰の「演劇実験室・天井桟敷」で俳優、演出を務めたことを皮切りに20代から、著述、版画、写真など様々なジャンルの創作活動を行なってきたが、その中で重要なキャリアを形成しているのが映像制作である。1970年代から本格的なスタートを切るその膨大なフィルモグラフィーは、時間、身体、映像論など多岐に渡るテーマを持つ。今回は4つのテーマにそって作品をセレクトし、映像作家・萩原朔美の全体像に迫る。

X1 萩原朔美作品集1　時間を生け捕る
8作品59分
京都 5/17 13:45

映像作家は時間を自由にコントロールするが、生け捕った時間をクールに提示するのが萩原朔美の流儀だ。ライフワークともいえる“定点観測”のモチーフを用いた『TIME』、ワンショットムービーの傑作『KIRI』の2つの代表作のほか、時間を記憶に変容させる『トランスレイト』など8作品を上映。

TIME　萩原朔美／16ミリ／15分／1971
KIRI　萩原朔美／16ミリ／7分／1972
TIME TABLE 17 JUNE 1973　萩原朔美／16ミリ／5分／1973
DIAGRAM　萩原朔美／16ミリ／10分／1973
リプリント　萩原朔美／16ミリ／3分／1977
記号乗物　萩原朔美／16ミリ／4分／1983
トランスレイト　萩原朔美／16ミリ／5分／1984
記念写真　萩原朔美／16ミリ／10分／1990

X2 萩原朔美作品集2　映画からキライズムへ
6作品76分
京都 5/17 16:30

「どうして、人は光の明滅に注目してしまうのだろうか」。映画からフリッカー（＝明滅）への回帰。1972年の『ザ・ドリーム・ネック・ギロチンド』に始まり、『キライズム』、『キライズムの旅』に至る、人間の本能に訴えかける映画のプリミティブな魅力を分析するプログラム。映画史の起源、『列車の到着』から発想した『ミシンと機関車』も上映。

ザ・ドリーム・ネック・ギロチンド　萩原朔美／16ミリ／3分／1972
BUTTERFLY　萩原朔美／8ミリ／3分／1973
風は木を忘れる　萩原朔美／デジタル／15分／2006
キライズム　萩原朔美／デジタル／20分／2008
キライズムの旅　萩原朔美／デジタル／20分／2009
ミシンと機関車　萩原朔美／デジタル／15分／2015

X3 萩原朔美作品集3　映像の思考回路
5作品79分
京都 5/18 13:45

映画は表現だけではなく、思考の手段でもある。映像制作という行為そのものが次々とイメージを膨らませていくきっかけとなる。ドア、本、ポスト、レンブラントの自画像、そうしたモチーフに触発された映像エッセイのプログラム。『映像書簡7』ではフィクションについての考察が展開される。

DRAMA　萩原朔美／16ミリ／3分／1974
ポストの話　萩原朔美／デジタル／15分／2007
聴雨 ―笑う悲しみ―　萩原朔美／デジタル／15分／2011
総ては本　萩原朔美／デジタル／15分／2011
映像書簡7　かわなかのぶひろ＋萩原朔美／16ミリ／31分／1996

X4 萩原朔美作品集4　毎日が冒険
6作品80分
京都 5/19 11:00

母である作家・萩原葉子の追想『その後の母のこと』は、滔々たる時間の流れに寄り添うかのような映像エッセイ。加えて失明に至る左目をモチーフにした「目の中の水」シリーズは3作を一挙上映する。「わたしから、わたしたちへと移行するのが、この三部作のテーマである」。自らの身体をも被写体にするのが映像作家なのだ。

2月10日　萩原朔美／16ミリ／5分／1988
その後の母のこと　萩原朔美／デジタル／15分／2005
目の中の水　萩原朔美／デジタル／15分／2012
目の中の水・2　―春丸・秋丸―　萩原朔美／デジタル／15分／2013
目の中の水・3　―秋丸の家出―　萩原朔美／デジタル／15分／2014
左からやってくるもの　萩原朔美／デジタル／15分／2016

横特 横浜特別講座「明滅する映画の秘密」
ナビゲーター:萩原朔美　上映6作品69分＋特別講座
横浜 6/18 14:00

横浜美術館の豊富な実験映像コレクションを中心に、毎年異なるナビゲーターが作品を選定し、解説つきで上映する横浜特別講座。本年は、「フィルム・メーカーズ・イン・フォーカス」で4プログラムに渡って作品が回顧上映される映像作家、萩原朔美によるプログラム。
「何故、遮断機やパトカー、消防車は光を点滅させるのだろうか。その疑問符のなかに、人が映画に魅入られる秘密があるのではないか。それを探るのが、この講座のテーマである。実験的な映画を作るアーティストの作品の中にその答えが潜んでいるのである」（萩原朔美）

フリッカー　トニー・コンラッド／16ミリ／30分／1966（アメリカ）…◎
バタフライ　萩原朔美／8ミリ／3分／1973
T,O,U,C,H,I,N,G　ポール・シャリッツ／16ミリ／12分／1968（アメリカ）…◎
アートマン　松本俊夫／16ミリ／11分／1975…◎
映像（かげ）　相原信洋／16ミリ／6分／1987…◎
KIRI　萩原朔美／16ミリ／7分／1972…◎
◎…横浜美術館所蔵作品

主題と手法の一致　芹沢洋一郎作品集　Y1 Y2

芹沢洋一郎は1980年代末から1990年代にかけ、「主題と手法の一致」をテーマに、多数の実験的な作品を制作、国内外で高い評価を得た。映像が「内容」や「ストーリー」に還元されてしまいがちな現在、映画が生み出される過程そのものをスリリングかつ鮮やかに見せてくれる芹沢作品はまさに必見である。
「映画を撮ること、映画を作ることの体験そのものが、映画そのものであるような映画!」（帯谷有理）

Y1 芹沢洋一郎作品集（8ミリ・疾風編）
6作品72分
京都 5/19 13:45

まじかよ?　芹沢洋一郎／8ミリ／10分／1980
ウゴクナ!　芹沢洋一郎／8ミリ／3分／1988
BELL　芹沢洋一郎／8ミリ／5分／1988
間男　芹沢洋一郎／8ミリ／6分／1989
いどうだいすき　芹沢洋一郎／8ミリ／23分／1991
感情・ゲル状の景色（武吉伸治とのビデオレター）　芹沢洋一郎／ビデオ／25分／1993

Y2 芹沢洋一郎（16ミリ・怒濤編）
4作品50分
京都 5/19 16:30

合成人間　芹沢洋一郎／16ミリ／25分／1993
殺人キャメラ　芹沢洋一郎／16ミリ／3分／1996
ダイレクトライトの弁明　芹沢洋一郎／ビデオ／7分／2003
ダイレクトライト　芹沢洋一郎／16ミリ／15分／1995

パシ・スリーピング・ムルマキ

誰に頼まれるでもなく、70〜80年代に多くのパンク的構造映画を量産し、ヘルシンキのライブ会場に機材を持ち込んで上映していたパシ・スリーピング・ムルマキ。ここ数年で現代美術アーティストたちに「再発見」され話題となり、今年のベネチア・ビエンナーレではその作品が紹介される予定。彼の超短編8ミリ作品10本が上映プログラムの冒頭に突如として侵入する。

J　水の中のUFO　パシ・スリーピング・ムルマキ/8ミリ（デジタル版）/3分/1979（フィンランド）
K　セルロイド上の5つの穴　パシ・スリーピング・ムルマキ/8ミリ（デジタル版）/2分/1980（フィンランド）
M　アンダルシアの犬小屋　パシ・スリーピング・ムルマキ/8ミリ（デジタル版）/2分/1980（フィンランド）
N　身ぶり　パシ・スリーピング・ムルマキ/8ミリ（デジタル版）/3分/1981（フィンランド）
O　謎のヒッチハイカーが3つの石を拾った　パシ・スリーピング・ムルマキ/8ミリ（デジタル版）/2分/1979（フィンランド）
Q　フォルサ症候群　パシ・スリーピング・ムルマキ/8ミリ（デジタル版）/2分/1982（フィンランド）
R　世界一周　パシ・スリーピング・ムルマキ/8ミリ（デジタル版）/2分/1981（フィンランド）
S　りんご　パシ・スリーピング・ムルマキ/8ミリ（デジタル版）/2分/1976（フィンランド）
T　眠り　パシ・スリーピング・ムルマキ/8ミリ（デジタル版）/2分/1979（フィンランド）
U　アスファルト・バレエ　パシ・スリーピング・ムルマキ/8ミリ（デジタル版）/1分/1980（フィンランド）

京都

京都芸術センター（京都）	5/12 [fri]	5/13 [sat]	5/14 [sun]	5/15 [mon]	5/16 [tue]	5/17 [wed]	5/18 [thu]	5/19 [fri]	5/20 [sat]
11:00		**R** 無題 2作品107分	**Q** 対話の可能性 4作品66分					**X4** 萩原朔美作品集4 6作品80分	**O** 三つの風景 2作品49分
13:45	**U** 陽の当たる町 2作品105分	**S** ワーキング・マンズ・デス 2作品124分	**L** 光の軌跡、闇の鼓動 5作品63分	**D** 追憶の表象 6作品72分	**B** 奇遇な風景たち 7作品74分	**X1** 萩原朔美作品集1 8作品59分	**X3** 萩原朔美作品集3 5作品79分	**Y1** 芹沢洋一郎作品集1 6作品72分	
16:30	**P** 斎藤大地特集 8作品70分	**N** アセント 2作品83分	**V** 今井祝雄特集 6作品66分	**E** 光線は踊る 6作品87分	**A** 球体から生まれる映画 4作品82分	**X2** 萩原朔美作品集2 6作品76分	**I** 未来は網膜に届く 7作品75分	**Y2** 芹沢洋一郎作品集2 4作品50分	**T** エル・マール・ラ・マール 2作品96分
19:00	**J** ドーソン・シティー 2作品123分	**M** カセット 2作品95分	**W** 中井恒夫初期作品集 5作品73分	**F** この青い世界 2作品77分	**C** 空き地で遊ぶ 5作品75分	**H** 仮現する身体 5作品76分	**G** 誰かがまたねと 2作品84分		**K** シネマ・フューチャーズ 2作品128分

福岡

福岡市総合図書館（福岡）	6/2 [fri]	6/3 [sat]	6/4 [sun]
11:30	**A** 球体から生まれる映画 4作品82分	**U** 陽の当たる町 2作品105分	**V** 今井祝雄特集 6作品66分
13:50	**B** 奇遇な風景たち 7作品74分	**E** 光線は踊る 6作品87分	**T** エル・マール・ラ・マール 2作品96分
16:10	**C** 空き地で遊ぶ 5作品75分	**D** 追憶の表象 6作品72分	**K** シネマ・フューチャーズ 2作品128分
18:30	**F** この青い世界 2作品77分	**J** ドーソン・シティー 2作品123分	

横浜

横浜美術館（横浜）	6/16 [fri]	6/17 [sat]	6/18 [sun]
11:30		**R** 無題 2作品107分	**N** アセント 2作品83分
14:00	**S** ワーキング・マンズ・デス 2作品124分	**W** 中井恒夫初期作品集 5作品73分	**横特** 横浜特別 6作品69分＋講座
16:30	**L** 光の軌跡、闇の鼓動 5作品63分	**P** 斎藤大地特集 8作品70分	**O** 三つの風景 3作品64分
18:30	**トゥ** ジャパン・トゥモロウ・セレクション	**M** カセット 2作品95分	**Q** 対話の可能性 4作品66分

名古屋

愛知芸術文化センター（名古屋）	6/21 [wed]	6/22 [thu]	6/23 [fri]	6/24 [sat]	6/25 [sun]
10:30		**G** 誰かがまたねと 2作品84分	**F** この青い世界 2作品77分	**L** 光の軌跡、闇の鼓動 5作品63分	**R** 無題 2作品107分
12:40	**A** 球体から生まれる映画 4作品82分	**I** 未来は網膜に届く 7作品75分	**E** 光線は踊る 6作品87分	**P** 斎藤大地特集 8作品70分	**M** カセット 2作品95分
14:50	**B** 奇遇な風景たち 7作品74分	**V** 今井祝雄特集 6作品66分	**W** 中井恒夫初期作品集 5作品73分	**O** 三つの風景 2作品49分	**Q** 対話の可能性 4作品66分
16:30	**C** 空き地で遊ぶ 5作品75分	**H** 仮現する身体 5作品76分	**D** 追憶の表象 6作品72分	**N** アセント 2作品83分	**K** シネマ・フューチャーズ 2作品128分
18:40	**S** ワーキング・マンズ・デス 2作品124分	**T** エル・マール・ラ・マール 2作品96分	**U** 陽の当たる町 2作品105分	**J** ドーソン・シティー 2作品123分	

関連上映 6/18（日）に愛知県美術館所蔵の和田淳子『ボディドロップアスファルト』（2000）や若手作家の上映会が開催されます。
上映プログラム等は愛知県美術館のウェブサイト（www-art.aac.pref.aichi.jp）にてお知らせします。